

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 国語 科目 現代の国語

教科：国語 科目：現代の国語 単位数：2 単位
 対象学年組：第1学年 1組～7組
 教科担当者：（1245組：榊野）（367組：小西）
 使用教科書：（精選現代の国語（第一学習社））

- 教科 国語
- 【知識及び技能】 語彙、漢字、基礎知識を習得する
 - 【思考力、判断力、表現力等】 四技能を伸ばし、思考力・判断力・表現力を伸ばす
 - 【学びに向かう力、人間性等】 課題に対する主体的な取り組みができるようにする

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
語彙、漢字、基礎知識を習得し、現代の国語のベースをつくる	読む、書く、話す、聞くの四技能を伸ばし、思考力・判断力・表現力を伸ばす	異なる種類の問題を与え、課題に対する主体的な取り組みができるようにする

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	単元 ものの見方 【知識及び技能】 話し言葉、書き言葉 【思考力、判断力、表現力等】 筆者の提案を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 文章構成を把握し自分に照らして考えを深める。	・指導事項 書く、読む ・教材 「生きもの」として生きる ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識及び技能】 ワークシートによる評価 【思考力、判断力、表現力等】 観察による評価 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシートによる評価	○	○	○	7
	定期考査					○	○		1	
	単元 自己と他者 【知識及び技能】 漢字、語彙 【思考力、判断力、表現力等】 主題に至る論の構造をとらえる。 【学びに向かう力、人間性等】 主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。	・指導事項 書く、読む ・教材 「「本当の自分」幻想」 ・一人1台端末の活用 等 ネットから事例を引く	○	○		【知識及び技能】 小テストと定期テストで、段階評価 【思考力、判断力、表現力等】 討論、定期テストでの評価 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシートによる評価	○	○	○	7
	定期考査					○	○		1	
2 学 期	単元 言語 【知識及び技能】 漢字 語彙 【思考力、判断力、表現力等】 具体と抽象の関係を整理する。 【学びに向かう力、人間性等】 言語の性質を理解する。	・指導事項 書く、読む ・教材 「ものとことば」 ・一人1台端末の活用 等 ネットから各種の資料を引く	○	○		【知識及び技能】 小テストと定期テストで、段階評価 【思考力、判断力、表現力等】 作文による評価 【学びに向かう力、人間性等】 発表による評価	○	○	○	10
	定期考査					○	○		1	
	単元 情報社会とメディア 【知識及び技能】 漢字 語彙 評論用語の基礎 【思考力、判断力、表現力等】 具体例を通して筆者の提起する課題を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 メディア社会に生きるものとして問題意識を持つ。	・指導事項 読む、書く、話す、聞く ・教材 「現代の「世論操作」」 ・一人1台端末の活用 等 ネットから、各種の事例を引く	○	○	○	【知識及び技能】 小テストと定期テストで、段階評価 【思考力、判断力、表現力等】 討論、定期テストでの評価 【学びに向かう力、人間性等】 発表による評価	○	○	○	8
	定期考査					○	○		1	
3 学 期	単元 時間と近代 【知識及び技能】 漢字 語彙 哲学の基礎 【思考力、判断力、表現力等】 論理的読解、事例を読む力 【学びに向かう力、人間性等】 具体例から一般論への展開を理解する。	・指導事項 書く、読む ・教材 「不均等な時間」 ・一人1台端末の活用 等 ネットから、各種の事例を引く	○	○		【知識及び技能】 小テストと定期テストで、段階評価 【思考力、判断力、表現力等】 討論、定期テストでの評価 【学びに向かう力、人間性等】 論文による評価	○	○	○	8
	定期考査					○	○		1	
	単元 社会・政治 【知識及び技能】 漢字 語彙 哲学の基礎 【思考力、判断力、表現力等】 論理的読解、事例を読む力 【学びに向かう力、人間性等】 自説を述べるための論の進め方をとらえる。	・指導事項 書く、読む ・教材 「フェアな競争」 ・一人1台端末の活用 等 ネットから、各種の事例を引く	○	○		【知識及び技能】 小テストと定期テストで、段階評価 【思考力、判断力、表現力等】 討論、定期テストでの評価 【学びに向かう力、人間性等】 ワークシートによる評価	○	○	○	12
	定期考査					○	○		1	
3 学 期	単元 実用的な文章 【知識及び技能】 漢字 語彙 【思考力、判断力、表現力等】 依頼文、案内文の書き方を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 相手に情報を適切に伝える文章の書き方を習得する。	・指導事項 書く ・教材 「実用的な手紙文の書き方」 ・一人1台端末の活用 等 ネットから各種の資料を引く	○			【知識及び技能】 小テストと定期テストで、段階評価 【思考力、判断力、表現力等】 手紙文による評価 【学びに向かう力、人間性等】 手紙文による評価	○	○	○	5

	定期考査									1
										合計
										70

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 言語文化 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～7組

教科担当者：（17組：榎野）（245組：小西）（36組：大谷）

使用教科書：（数研出版 言語文化）

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】語彙、漢字、基礎知識を習得する
- 【思考力、判断力、表現力等】四技能を伸ばし、思考力・判断力・表現力を伸ばす
- 【学びに向かう力、人間性等】課題に対する主体的な取り組みができるようにする

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高める。自分の思いや考えを深めることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読					
単元 説話 【知識及び技能】 文語のきまり 古典特有の表現 【思考力、判断力、表現力等】 内容・構成・展開を捉える 【学びに向かう力、人間性等】 兄と僧の心情を捉える 自分の考えを説明する	・指導事項 歴史的仮名遣い 50音図 ・教材 「宇治拾遺物語」兄のそら寝 ・一人1台端末の活用 等			○	【知識及び技能】 文語のきまり、古典特有の表現について理解している 【思考力、判断力、表現力等】 内容・構成・展開を捉えている 【学びに向かう力、人間性等】 兄と僧の心情を捉える 自分の考えを説明しようとしている	○	○	○	7
単元 近代小説(一) 【知識及び技能】 文脈から意味を読み取る 【思考力、判断力、表現力等】 作品に表れたものの見方・考え方を捉え、内容を解釈する 【学びに向かう力、人間性等】 自分の考えを文章にする	・指導事項 主人公が到達した死生観について理解を深め、自身の考えを表現する ・教材 城の崎にて ・一人1台端末の活用 等			○	【知識及び技能】 文脈から意味を読み取っている 【思考力、判断力、表現力等】 作品に表れたものの見方・考え方を捉え、内容を解釈している 【学びに向かう力、人間性等】 自分の考えを文章にしようとしている	○	○	○	4
定期考査						○	○		1
1 学 期 単元 物語 【知識及び技能】 文語のきまり 古典特有の表現 【思考力、判断力、表現力等】 作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容を解釈を深める 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しもうとする	・指導事項 品詞 動詞の活用 ・教材 なよ竹のかぐや姫（竹取物語） ・一人1台端末の活用 等			○	【知識及び技能】 文語のきまり、古典特有の表現について理解している 【思考力、判断力、表現力等】 作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容を解釈している 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しもうとしている	○	○	○	8
単元 現代小説 【知識及び技能】 作品中の語句について、それらの文化的背景について理解を深める 【思考力、判断力、表現力等】 作品の解釈をふまえ、「言葉は生きもの」ということについて自分の考えを表現する 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しもうとする	・指導事項 「言葉は生き物」という認識に立ち、竹取物語との比べ読みをする ・教材 さらば！ ・一人1台端末の活用 等			○	【知識及び技能】 作品中の語句について、それらの文化的背景について理解を深めている 【思考力、判断力、表現力等】 作品の解釈をふまえ、「言葉は生きもの」ということについて自分の考えを表現する 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しもうとしている	○	○	○	3
						○	○		1
単元 歌物語 【知識及び技能】 文語のきまり 古文特有の表現 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や展開、表現の特色を理解することができる 【学びに向かう力、人間性等】 第一段落と第二段落の関係性を見極め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている	・指導事項 物語の背景 形容詞 形容動詞 ・教材 芥川「伊勢物語」 ・一人1台端末の活用 等			○	【知識及び技能】 文語のきまり、古文特有の表現 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や展開、表現の特色を理解することができる 【学びに向かう力、人間性等】 第一段落と第二段落の関係性を見極め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている	○	○	○	8
単元 詩歌 【知識及び技能】 作品中の語句について理解を深める 【思考力、判断力、表現力等】 印象に残った歌を選び鑑賞文を書く 情景や心情の描写を取り入れた短歌を作る 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しもうとする	・指導事項 歌の修辞 ・教材 短歌 ・一人1台端末の活用 等			○	【知識及び技能】 作品中の語句について、それらの文化的背景について理解を深めている 【思考力、判断力、表現力等】 印象に残った歌を選び鑑賞文を書く 情景や心情の描写を取り入れた短歌を作る 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しもうとしている	○	○	○	4

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（128組：齋藤）（357組：大谷）（46組：望月）

使用教科書：（第一学習社 論理国語）

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】語彙、漢字、慣用的表現、基礎知識を習得する
- 【思考力、判断力、表現力等】四技能を伸ばし、思考力・判断力・表現力を伸ばす
- 【学びに向かう力、人間性等】様々な課題に対する主体的な取り組みができるようにする

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の国語の運用に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考えたり、構成的に書く力を伸ばすとともに、様々なジャンルの考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思考を広げたり深めたりすることができるようにする。	国語がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって国語に親しみ自己を向上させ、我が国の国語の担い手としての自覚を深め、国語により他者や社会に関わる態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学期	『自他の「間合い」』 【知】哲学的真理的に表現する語句に触れ語彙を増やす。 【思】文の構造と、論理展開についてたどらせて、論説文の基本の形を考える。 【学】授業で取り上げられた内容から、「自他の間合い」を自分のこととしてとらえ、考える。 定期考査	○あらかじめ調べてきた語句の意味を確認し、文脈をたどる ○対比の関係を整理することで、文脈を細かくたどる。 ◎レポート作成を通じて、自分自身の考えをまとめ、まとめる。て話し合う。 ○「天然知能として生きる」と比較して、その論理の特徴を捉えなおす	○	○	○	【知】言葉には、論理や比喩を明確にする働きがあることを理解している。 【思】「読むこと」において、この評論に表れているものの見方、考え方を捉えるとともに、背景や他の問題についても解釈を深めている。 【主】粘り強く論理の展開をたどり、学習課題に沿って筆者の主張を考え、それを、自分自身のものとして組み立てなおしている。	○	○	○	8 1
	『「私」中心の日本語』 【知】日本語の人称の表現に触れて、語彙を豊かにする。 【思】文の構造と、論理展開についてたどらせて、要点のまとめを正確に行う。 【学】文化によって生じる言語表現の違いについて、自分の事例で考える。 定期考査	○あらかじめ調べてきた語句の意味を確認し、その表現の意味をたどる ○特徴的な比喩表現を整理することで、文脈を細かくたどる。 ◎発表授業を通じて、自分自身の考えをまとめ、他者の意見について話し合う。 ○「推論とは何か」と比較して、その論理の特徴を捉えなおす	○	○	○	【知】言葉には、直観や比喩を効果的にする働きがあることを理解している。 【思】「読むこと」において、この評論に表れているものの見方、考え方を捉えるとともに、その表現の仕方に注目して、その特色を理解している。 【主】粘り強く論理の展開をたどり、別の著者が同じものを評論していることなどを通じて、それを、自分自身のものとして、考えることができる。	○	○	○	14 1
2 学期	『日本人の「自然」』 【知】より細やかな概念をあらわす語句や具体例に触れ、語彙を増やす。 【思】「日本人」と「自然」の関係性とその状況を論理的に捉え、贈与の物語について、考えを深める。 【学】授業ごとのまとめノートなどから、自分の考えを話し合う。 定期考査	○本文を話の展開にしたがっていくつかの意味段落（五つ）に分け、それぞれの内容をだまかに把握することを目標に、簡潔に要約する。 ○「日本人」と「自然」の関係について、整理し、読解を深める。 ◎について整理をし、全体を振り返る。 ○この作品について、考えたことを話し合う。	○	○	○	【知】語句の量を増やし、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 【主】粘り強く読解をすることを通じて、今までの学習を生かして人の心のありようについて考えを深め、自分の考えを話し合おうとしている。	○	○	○	10
	『働かないアリの意義がある』 【知】生物学の概念をあらわす語句や具体例に触れ、語彙を増やす。 【思】人間を生物の一種として考え、生物としての多様性を論じる論旨を的確にとらえ、考えを深める。 【学】授業ごとのまとめノートなどから、自分の考えを話し合う。 定期考査	○本文を話の展開にしたがっていくつかのトピックスを整理し、それに基づく論理展開を明確にする。 ○生物についての多様性の問題について、「人間」との比較も含めて、整理し、読解を深める。 ◎生物多様性、動的並行論について整理をし、全体を振り返る。 ○この作品について、考えたことを話し合う。	○	○	○	【知】理系概念を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈が順次深められていくことについて、考察している。 【主】読解をすることを通じて、生物多様性の中で生きる人間への理解を深め、自分自身についての考えを表現する。	○	○	○	16 1

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：3 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（148組：太田） （235組：望月） （67組：齋藤）

使用教科書：（文英堂 古典探究）

- 教科 国語 の目標：
- 【知識及び技能】語彙、漢字、基礎知識を習得する
 - 【思考力、判断力、表現力等】四技能を伸ばし、思考力・判断力・表現力を伸ばす
 - 【学びに向かう力、人間性等】課題に対する主体的な取り組みができるようにする

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高める。自分の思いや考えを深めることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書 読					
1 学 期	『十訓抄』大江山 ● 登場人物の動きや心理、内容の面白さを読み取る。 ● 和歌の表現技法について復習する。	○ 登場人物と出来事を把握する。 ○ 「大江山」の歌に用いられている修辞を把握する。 ◎ 定頼中納言の心中を話し合う。	○	○ ○	【知】和歌の修辞を理解している。 【思】出来事に沿って作中人物の言動を把握している。	○	○	○	11
	『列子』朝三暮四 ● 訓読法を復習する。 ● 故事成語とは何かを学び、内容を理解する。	○ 登場人物と出来事を把握する。 ◎ 論理の転換・面白みを理解する。		○ ○	【知】漢文の訓読法を理解している。 【思】出来事に沿って作中人物の言動とその結果を把握している。	○	○	○	12
	定期考査					○	○		1
	『沙石集』歌故に命失う事 ● 話の展開や登場人物の心情変化、作者の考えを読み取る。 ● 和歌の表現法についておさえ、内容を解釈する。	○ 歌合、和歌の修辞について理解を深める。 ○ 話の展開や登場人物の心情について、的確に捉える。 ◎ 歌合の判者の立場で、他者と意見を交わしながら、歌の優劣を判定する。	○	○ ○	【知】和歌の修辞を理解している。 【思】出来事に沿って作中人物の言動を把握している。	○	○	○	11
	定期考査					○	○		1
	『人虎伝』 ● 訓読法を復習する。 ● 漢詩のルールについて学ぶ。 ● 話の展開や登場人物の心情変化を読み取る。	○ 科挙をはじめ、当時の中国の役人登用制度について把握する。 ○ 『山月記』と比較し、相違点について整理する。 ◎ 漢詩の読解を通して作中人物の心情を理解する。	○	○ ○	【知】訓読法・漢詩のルールを理解している。 【思】出来事に沿って作中人物の言動を把握している。 【態】『山月記』と比較し、相違点をまとめ、そこから考えたことをグループで話し合い、まとめることができる。				12
2 学 期	『史記』鴻門之会 四面楚歌 項羽の最期 ● 訓読の基礎知識を蓄積する。 ● 司馬遷と『史記』についての基礎知識を持つ。 ● 登場人物の考え方・心情を理解する。 ● 『史記』の豊かな描写を鑑賞する。 ● 『史記』を出典とする故事成語について理解する。	○ 『史記』の作品の特徴についての知識を整理する。 ○ 登場人物の考え方・心情を理解する。 ○ 『史記』の文学的な表現を読み味わう。 ◎ 配役を分担して朗読することで教材の理解を深める。 ◎ 故事成語の意味を調べる。 ◎ 登場人物の考え方や心情について話し合う。		○ ○	【知】『史記』の内容と作者について理解している。 【思】朗読によって理解を深めたり、自分の意見を表現してグループで話し合ったりしている。	○	○	○	13
	定期考査					○	○		1
	『史記』鴻門之会 四面楚歌 項羽の最期 ● 訓読の基礎知識を蓄積する。 ● 司馬遷と『史記』についての基礎知識を持つ。 ● 登場人物の考え方・心情を理解する。 ● 『史記』の豊かな描写を鑑賞する。 ● 『史記』を出典とする故事成語について理解する。	○ 『史記』の作品の特徴についての知識を整理する。 ○ 登場人物の考え方・心情を理解する。 ○ 『史記』の文学的な表現を読み味わう。 ◎ 配役を分担して朗読することで教材の理解を深める。 ◎ 故事成語の意味を調べる。 ◎ 登場人物の考え方や心情について話し合う。	○	○ ○	【知】『史記』の内容と作者について理解している。 【思】朗読によって理解を深めたり、自分の意見を表現してグループで話し合ったりしている。	○	○	○	13

<p>『大鏡』南院の競射</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本的な助動詞について復習する。 ●平安時代の摂関政治や藤原氏内の政治的対立について理解する。 ●歴史物語というジャンルについて理解する。 ●登場人物の心情を捉え、藤原道長の人物像を読み取る。 	<p>○『大鏡』の作品の特性を把握する。</p> <p>○登場人物の考え方・心情を理解する。</p> <p>◎摂関政治において藤原氏の兄弟がどのような対立関係にあったか、立后についての当時の常識について知り、中宮や女房の対立関係をも学ぶ。</p>	○	○	○	<p>【知】『大鏡』の特徴と登場人物について理解している。</p> <p>【思】登場人物の性格や行動の理由についてグループで話し合い、考えを深めることができる。</p>	○	○	○	11
定期考査						○	○		1
<p>『源氏物語』桐壺・若紫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●『源氏物語』について、基礎知識を持ち、文学史的な意義を理解する。 ●作り物語としての特徴を理解し、光源氏や、若紫という主要人物像を把握する。 ●登場人物の心情を読み取り、理解する。 	<p>○『源氏物語』の特色についての知識を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長大な物語の中での「桐壺」「若紫」の位置を把握する。 ○登場人物の言動と心情を読み取り、作品の展開を理解する。 <p>◎『源氏物語』の優れた表現について見解を話し合う。</p>	○	○	○	<p>【知】『源氏物語』の内容と作者について解している。</p> <p>【思】登場人物の心情を読み取っている。</p> <p>【思】自分の意見を表現し、話し合っている。</p>	○	○		17
定期考査						○	○		1
									合計 105

教科・科目	国語・論理国語					単位数	2単位		
						対象学年	3学年		
担当者	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組	
	太田	小泉	小泉	太田	小泉	小泉	太田		
教科書	『第一学習社 論理国語』								
補助教材	『キーワード漢字2700』 『高校生必修語彙ノート』								
目標	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等			
教科の目標	語彙、漢字、慣用的表現、基礎知識を習得する。			四技能を伸ばし、思考力・判断力・表現力を伸ばす。		様々な課題に対する主体的な取り組みができるようにする。			
科目の目標	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の国語の運用に対する理解を深めることができるようにする。			論理的に考えたり、構成的に書く力を伸ばすとともに、様々なジャンルの考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思考をを広げたり深めたりすることができるようにする。		国語がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって国語に親しみ自己を向上させ、我が国の国語の担い手としての自覚を深め、国語により他者や社会に関わる態度を養う。			
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数	
1 学期	目に見える制度と見えない制度	知 本文中の語句や語彙の使い方、また文章の構成や展開の仕方について理解できるようにする。	文章読解	知 本文中の語句や語彙の使い方、また文章の構成や展開の仕方について理解を深めたか。 思 文章表現上の工夫を理解し主張を捉え、制度について新たな観点から自分の考えを持ったか。 態 評論を粘り強く読んで内容を捉え、「制度」の役割などについて、積極的に説明できたか。	〇〇〇	13			
		思 文章表現上の工夫を理解し主張を捉え、制度について新たな観点から自分の考えを持ったか。							
		学 評論を粘り強く読んで内容を捉え、「制度」の役割などについて、積極的に説明できるようにする。							
	中間考査				〇〇				
いのちのかたち	知 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	文章読解	知 語句の量を増やし、語彙を豊かにしているか。 思 論展開を捉え、筆者の抱く「いのち」の概念について考察できているか。 態 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深めることができるか。	〇〇〇	13				
	思 論展開を捉え、筆者の抱く「いのち」の概念について考察する。								
	学 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。								
期末考査				〇〇					

2 学期	「である」こと と「する」こと	知 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	文章読解	知 語句の量を増やし、語彙を豊かにしているか。	〇〇〇	18
		思 具体例と主張の関係を把握し、民主主義社会のあり方について理解を深める。		思 具体例と主張の関係を把握し、民主主義社会のあり方について理解を深めることができるか。		
		学 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。		態 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深めることができているか。		
	中間考査			〇〇		
	現代日本の開化	知 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 思 内容を的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握する。 学 文章の内容や解釈を評価し、自分の 考えを深める。	文章読解	知 語句の量を増やし、語彙を豊かにしているか。 思 内容を的確に捉え、論点を明確にし ながら要旨を把握することができるか。 態 文章の内容や解釈を評価し、自分の 考えを深めることができているか。	〇〇〇	18
期末考査			〇〇			
3 学期	現代日本の開化	知 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	文章読解	知 語句の量を増やし、語彙を豊かにしているか。	〇〇〇	8
		思 内容を的確に捉え、論点を明確にし ながら要旨を把握する。 学 文章の内容や解釈を評価し、自分の 考えを深める。		思 内容を的確に捉え、論点を明確にし ながら要旨を把握することができるか。 態 文章の内容や解釈を評価し、自分の 考えを深めることができているか。		
	期末考査			〇〇		

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目	国語・古典探究					単位数	2単位	
						対象学年	3学年	
担当者	A							
	小泉							
教科書	古典探究（文英堂）							
補助教材	古文上達基礎編読解と演習45、体系古典文法、体系古典文法演習ノート、古文単語315							
目標	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等		
教科の目標	古典を読むために必要な語句の量を増やし我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めながら、語彙を豊かにする。			古典の物語を通して先人のものの見方、感じ方、考え方を知り、深く共感する力や豊かに想像する力を伸ばす。		古典に親しむことで自己を向上させ、言葉が持っている価値への理解を深めるとともに、生涯にわたって言語を学ぼうとする態度を養う。		
科目の目標	毎授業で小テストを実施し、重要語句の意味や読み、品詞への理解を深めることで語彙を豊かにし作品の理解に繋げる。			問題演習ごとに文学史についても触れながらももの見方、感じ方、考え方とのかかわりの中で解釈を深めさせる。		単元ごとに課題を設定することで見通しを持って学習に取り組む姿勢づくりを促す。		
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数
1 学期	問題演習	知 古典文法(用言)を理解することができる。	小テスト、入試問題演習、提出物、口頭課題、授業態度	知 古典文法(用言)を理解することができたか。	〇〇〇	7		
		思 品詞に注意して、現代語訳ができる。		思 品詞に注意して、現代語訳ができたか。				
		学 人物を的確に捉え自己の意見を表現できる。		態 意見を表現する活動を通して、自身の学習への見通しを立て課題に取り組むことができたか。				
	中間考査				〇〇			
	問題演習	知 重要古文単語を覚えることができる。	小テスト、入試問題演習、提出物、口頭課題、授業態度	知 重要古文単語を覚えることができたか。	〇〇〇	14		
思 品詞に注意して、現代語訳ができる。	思 品詞に注意して、現代語訳ができたか。							
学 情景を的確に捉え、自己の意見を表現できる。	態 意見を表現する活動を通して、自己の学習への見通しを立て課題に取り組むことができたか。							
期末考査				〇〇〇				

2 学期	問題演習	知 古典文法(助動詞)を理解することができる。	小テスト、入試問題演習、提出物、口頭課題、授業態度	知 古典文法(助動詞)を理解することができたか。	〇〇〇	6
		思 辞典や注釈を活用し、内容をつかむことができる。		思 辞典や注釈を活用し、内容をつかむことができたか。		
		学 心情を的確に捉え、自己の意見を表現できる。		態 意見を表現する活動を通して、自己の学習への見通しを立て課題に取り組むことができたか。		
	中間考査				〇〇〇	
	問題演習	知 古典文法(敬語)を理解することができる。 思 古典の世界と現代を比較して、人間・社会・自然について読解を深めることができる。 学 語彙を豊かにし、表現上の特色を捉えながら学習することができる。	小テスト、入試問題演習、提出物、口頭課題、授業態度	知 古典文法(敬語)を理解することができたか。 思 古典の世界と現代を比較して、人間・社会・自然について読解を深めることができたか。 態 語彙を豊かにし、表現上の特色について考える活動を通して、自己の学習への見通しを立て課題に取り組むことができたか。	〇〇〇	14
問題演習	知 古典文法(敬語)を理解することができる。 思 古典の世界と現代を比較して、人間・社会・自然について読解を深めることができる。 学 語彙を豊かにし、表現上の特色を捉えながら学習することができる。	小テスト、入試問題演習、提出物、口頭課題、授業態度	知 古典文法(敬語)を理解することができたか。 思 古典の世界と現代を比較して、人間・社会・自然について読解を深めることができたか。 態 語彙を豊かにし、表現上の特色について考える活動を通して、自己の学習への見通しを立て課題に取り組むことができたか。	〇〇〇	14	
期末考査				〇〇		
3 学期	問題演習	知 古典文法(敬語)を理解することができる。 思 古典の世界と現代を比較して、人間・社会・自然について読解を深めるこ	質問応答	知 古典文法(敬語)を理解することができたか。 思 古典の世界と現代を比較して、人間・社会・自然について読解を深めるこ	〇〇〇	15
		態 語彙を豊かにし、表現上の特色について考える活動を通して、自己の学習への見通しを立て課題に取り組むことができたか。		態 語彙を豊かにし、表現上の特色について考える活動を通して、自己の学習への見通しを立て課題に取り組むことができたか。		
		学 語彙を豊かにし、表現上の特色を捉えながら学習することができる。				
	期末考査					

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目	現代文演習					単位数	2 単位				
						対象学年	3 学年				
担当者	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組	8 組			
	望月・大谷	望月・大谷	望月・大谷	望月・大谷	望月・大谷	望月・大谷	望月・大谷	望月・大谷			
教科書	プログレス現代文完成編 三訂版										
補助教材	現代文キーワード読解										
目標	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			学びに向かう力、人間性等				
教科の目標	演習を重ね、大学入試において一般受験で現代文を使用する生徒も入試問題に対応できる力をつける。 そのために語彙力・漢字の力の底上げをする。			意見を書き込んだり話し合ったりする機会を授業中に設け、本文に書かれていることに対する意見をクラスメイトと共有し、問題解決能力を養う。			課題の完成度を高くし、提出期限に間に合わせる。授業中に級友や教員と意見交換を活発にできるようになる。				
科目の目標	問題演習を通して随想から筆者のものの見方・考え方・感じ方を読み取り、日常を超えたものの普遍性・精神性について思考を深める。評論の要旨を捉えて構成を把握し、内容の的確に理解する。小説の登場人物の人物像・心情の推移を把握し、特色のある表現を読み味わうなどの力を養う。			問題演習を通して作品の構成を理解して小説を読み味わい、人生、社会について思索を深める。客観的記述と主観的記述を明確に区別し、論理展開を的確に捉えるなどの力を養う。			単語の勉強や要約ノートを使用しての復習の習慣を確立し、自ら主体的に学ぶ態度を養う。また、その結果語彙力と読解力・構成力を身につける。				
	単元名	単元の具体的な指導目標			指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数		
1 学期	問題番号 1・2	知	テーマ学習・語彙力の向上			・問題演習 ・解説、意見交換 ・小テスト、復習	知	小テストの得点・		〇〇〇	5
		思	問題演習・話し合い				思	演習の解答・プリント			
		学	復習として要約文作成				態	要約ノート提出			
	問題番号 3・4	知	テーマ学習・語彙力の向上			・問題演習 ・解説、意見交換 ・小テスト、復習	知	小テストの得点・		〇〇〇	7
		思	問題演習・話し合い				思	演習の解答・プリント			
		学	復習として要約文作成				態	要約ノート提出			
	中間考査							〇〇			
	問題番号 5～7	知	テーマ学習・語彙力の向上			・問題演習 ・解説、意見交換 ・小テスト、復習	知	小テストの得点・		〇〇〇	7
		思	問題演習・話し合い				思	演習の解答・プリント			
		学	復習として要約文作成				態	要約ノート提出			
問題番号 8～10	知	テーマ学習・語彙力の向上			・問題演習 ・解説、意見交換 ・小テスト、復習	知	小テストの得点・		〇〇〇	7	
	思	問題演習・話し合い				思	演習の解答・プリント				
	学	復習として要約文作成				態	要約ノート提出				
期末考査							〇〇				

2 学期	問題番号 11・12	知 テーマ学習・語彙力の向上	・問題演習 ・解説、意見交換 ・小テスト、復習	知 小テストの得点・	〇〇〇	7
		思 問題演習・話し合い		思 演習の解答・プリント		
		学 復習として要約文作成		態 要約ノート提出		
	問題番号 13・14	知 テーマ学習・語彙力の向上	・問題演習 ・解説、意見交換 ・小テスト、復習	知 小テストの得点・	〇〇〇	9
		思 問題演習・話し合い		思 演習の解答・プリント		
		学 復習として要約文作成		態 要約ノート提出		
	中間考査				〇〇	
問題番号 15～17	知 テーマ学習・語彙力の向上	・問題演習 ・解説、意見交換 ・小テスト、復習	知 小テストの得点・	〇〇〇	8	
	思 問題演習・話し合い		思 演習の解答・プリント			
	学 復習として要約文作成		態 要約ノート提出			
問題番号 18・19	知 テーマ学習・語彙力の向上	・問題演習 ・解説、意見交換 ・小テスト、復習	知 小テストの得点・	〇〇〇	9	
	思 問題演習・話し合い		思 演習の解答・プリント			
	学 復習として要約文作成		態 要約ノート提出			
期末考査				〇〇		
3 学期	質問対応	知		知	〇〇〇	6
		思		思		
		学		態		
	質問対応	知		知	〇〇〇	5
		思		思		
		学		態		
	期末考査				〇〇	

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目	国語総合					単位数	2単位		
						対象学年	3学年		
担当者	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組	
	榎野・齋藤	榎野・齋藤	榎野・齋藤	榎野・齋藤	榎野・齋藤	榎野・齋藤	榎野・齋藤	榎野・齋藤	
教科書									
補助教材									
目標	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等			
教科の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。			生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。		言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。			
科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様なかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数	
1学期	ことばと情報の探求	知	言葉のはたらきを理解する	<ul style="list-style-type: none"> 情報の読み取り 情報の要約 情報の探索 	知	言葉のはたらきを理解できる	〇〇〇	4	
		思	目的に応じて情報を収集する		思	目的に応じて情報を収集できる			
		学	課題に主体的に取り組む		態	課題に主体的に取り組める			
	正確な表現	知	表現の特色について理解する	<ul style="list-style-type: none"> マッピングメモの作成 紙上ディベート 推敲の仕方 	知	表現の特色について理解できる	〇〇〇	4	
		思	伝えたいことを明確にする		思	伝えたいことを明確にできる			
		学	課題に主体的に取り組む		態	課題に主体的に取り組める			
	中間考査						〇〇		
	わかりやすい表現	知	場面に応じた表現について理解する	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな伝達方法 マニュアル作成 	知	場面に応じた表現について理解できる	〇〇〇	7	
		思	読み手の同意を得られる工夫をする		思	読み手の同意を得られる工夫ができる			
		学	課題に主体的に取り組む		態	課題に主体的に取り組める			
自分史を書く	知	手段に応じた表現を使い分ける	<ul style="list-style-type: none"> 年表の作成 自分史の作成 	知	手段に応じた表現を使い分けることができる	〇〇〇	7		
	思	事象を的確に表現する		思	事象を的確に表現できる				
	学	課題に主体的に取り組む		態	課題に主体的に取り組める				
期末考査						〇〇			

2 学期	声のレッスン	知 話し言葉の特徴を理解する	・発音、発声 ・スピーチ	知 話し言葉の特徴を理解できる	〇〇〇	3
		思 自分の思いが伝わる工夫をする		思 自分の思いを伝わる工夫ができる		
		学 課題に主体的に取り組む		態 課題に主体的に取り組める		
	プレゼンテーション	知 自分の思いを伝えるための語彙を増やす	・パワーポイントの作成 ・プレゼンテーション	知 自分の思いを伝えるための語彙を増やせる	〇〇〇	3
		思 自分の考えが伝わる工夫をする		思 自分の考えが伝わる工夫ができる		
		学 課題に主体的に取り組む		態 課題に主体的に取り組める		
	中間考査				〇〇	
	ディベート	知 伝え合う目的に応じた表現をする	・資料の検索、整理 ・ディベート	知 伝え合う目的に応じた表現ができる	〇〇〇	15
		思 伝え合う内容を検討する		思 伝え合う内容を検討できる		
		学 課題に主体的に取り組む		態 課題に主体的に取り組める		
本を作る	知 読書の意義を理解する	・本のデザイン ・本の制作	知 読書の意義を理解できる	〇〇〇	15	
	思 読み手を意識した工夫をする		思 読み手を意識した工夫ができる			
	学 課題に主体的に取り組む		態 課題に主体的に取り組める			
期末考査				〇〇		
3 学期	イベントをプロデュース	知 企画の方法を理解する	・シンポジウムの準備 ・シンポジウム	知 企画の方法を理解できる	〇〇〇	12
		思 交渉の仕方を工夫し実践する		思 交渉の仕方を工夫し実践できる		
		学 課題に主体的に取り組む		態 課題に主体的に取り組める		
		知		知	〇〇〇	0
		思		思		
	学		態			
期末考査				〇〇		

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目	小論文演習					単位数	2単位				
						対象学年	3学年				
担当者	B帯1	B帯									
	小泉	小西									
教科書											
補助教材	「小論文を書くための基礎知識BOX」「マスタードリル」										
目標	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等					
教科の目標	実社会に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。			実社会における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。		言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。					
科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様なかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
	単元名	単元の具体的な指導目標			指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数		
1学期	表現の基礎	知	話し言葉と書き言葉の特徴や役割を理解することができる。			<ul style="list-style-type: none"> ・文体の統一 ・話し言葉と書き言葉の使い分け ・自己と他者を見つめて表現する 	知	話し言葉と書き言葉の特徴や役割を理解することができたか。		〇〇〇	8
		思	「書くこと」を中心として、自身の考えを表現している。				思	「書くこと」を中心として、自身の考えを表現していたか。			
		学	言葉がもつ価値への認識を深めながら、言葉による見方・考え方をういて、他者と関わろうとしている。				学	言葉がもつ価値への認識を深めながら、言葉による見方・考え方をういて、他者と関わろうとしていたか。			
		知					知				
		思					思				
		学					態				
		中間考査									
	表現の基礎	知	小論文に関する基本的事項を理解することができる。			<ul style="list-style-type: none"> ・要約 ・文章構成 	知			〇〇〇	16
		思	「書くこと」を中心として、自身の考えを表現している。				思				
		学	言葉がもつ価値への認識を深めながら、言葉による見方・考え方をういて、他者と関わろうとしている。				学				
		知					知				
		思					思				
		学					態				
	期末考査										

2 学期	表現の実践	知	小論文に関する基本的事項を理解することができる。	・データや図表の読み取り ・文章の推敲	知	小論文に関する基本的事項を理解することができたか。	〇〇〇	14
		思	「書くこと」を中心として、自身の考えを表現している。		思	「書くこと」を中心として、自身の考えを表現していたか。		
		学	言葉がもつ価値への認識を深めながら、言葉による見方・考え方をういて、他者と関わろうとしている。		学	言葉がもつ価値への認識を深めながら、言葉による見方・考え方をういて、他者と関わろうとしていたか。		
		知			知			
		思			思			
		学			態			
	中間考査							
2 学期	表現の実践	知	小論文に関する基本的事項を理解することができる。	・入試小論文の実践	知	小論文に関する基本的事項を理解することができたか。	〇〇〇	24
		思	「書くこと」を中心として、自身の考えを表現している。		思	「書くこと」を中心として、自身の考えを表現していたか。		
		学	言葉がもつ価値への認識を深めながら、言葉による見方・考え方をういて、他者と関わろうとしている。		学	言葉がもつ価値への認識を深めながら、言葉による見方・考え方をういて、他者と関わろうとしていたか。		
		知			知			
		思			思			
		学			態			
	期末考査							
3 学期	表現の実践	知	小論文に関する基本的事項を理解することができる。	・入試小論文の実践	知	小論文に関する基本的事項を理解することができたか。	〇〇〇	8
		思	「書くこと」を中心として、自身の考えを表現している。		思	「書くこと」を中心として、自身の考えを表現していたか。		
		学	言葉がもつ価値への認識を深めながら、言葉による見方・考え方をういて、他者と関わろうとしている。		学	言葉がもつ価値への認識を深めながら、言葉による見方・考え方をういて、他者と関わろうとしていたか。		
		知			知			
	思			思				
	学			態				
	期末考査							

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度